

■理事長コラム

理事長就任にあたって

■居宅支援 NEWS

誕生日パーティーをして感じたこと

■相談支援事業

クライシスマネジメント～災害対策をこぶしの会でも本気で～

■生活介護 こっから NEWS

創作活動の時間

■就労継続B型 ここに NEWS

ここすた活動報告

■こぶしの会法人全体研修を行いました

■2018年度 決算公告

■藤井先生 ありがとう会

■Topix

■東市まるごと探求合宿

■こっから栽培日誌⑧

今年はアライグマにやられちゃいました

■新規事業報告

生活支援のための施設建設を、みんなの力で!

■ハンカチになりました!

■寄贈

ありがとうございました!

■編集後記



社会福祉法人こぶしの会

〒630-8424 奈良市古市町529-4

電話 0742-63-6765 FAX 0742-63-6766 発行責任者/坂下 伸一

e-mail/kokkara@kokkara.jp http://kokkara.jp/

Column

理事長就任にあたって

社会福祉法人こぶしの会 理事長 坂下 伸一

6月22日、こぶしの会の理事会において、藤井正紀前理事長の後任として、理事長職に就任することになりました。前理事長に比べ力不足ですが、よろしくお願いします。

さて、先ごろ「こっから活動班」で新しい仲間の歓迎会がありました。活動班のみんなで、近鉄奈良駅近くに、おいしいお昼ご飯を食べに行きました。私も行かせてもらったのですが、ゆったりとした中で、お昼ご飯をこっからでは食べることのできなかった新しい仲間も、みんなと一緒に食べることができました。街のお店屋さんだということもあったのですが、みんなで楽しく食べ、喜び合うことができました。

こぶしの会は、設立の理念に「障害のある人が主人公」ということを掲げています。活動班の新しい仲間の例をひくまでもなく、一人ひとりの仲間が、あせることなく、ゆっくりでも自分の力で、自立の道を歩んでいくことを大切にしているのが、私たちの法人のあり方だと思います。一方、社会保障費の削減という国の政策の中で、障害者福祉や社会福祉法人をめぐる状況は決して安心できるものではありません。「障害のある人が主人公」という理念の実現を目指すことと法人をめぐる状況との間に大きな矛盾がある中で、理事長を引き受けるには、相当の覚悟がいるだろうと考えましたが、元来「何とかなる主義」という気楽な人間なので、引き受けてしまったというのが本当のところでした。ただ、引き受けるにあたって、「こぶしの会」10周年記念誌を、再度読み返してみました。理事長の仕事を進めるためには、これまでの法人の歴史を確認し、学ぶことが必要だと思ったからです。そこには、社会福祉法人になる以前、無認可の共同作業所として開所して以来、社会福祉法人こぶしの会として年月を積み重ねる中で、大きく2つのことが重要視されてきたといえます。

・障害のある仲間の人間としての権利を守る

障害のある仲間が働くことを保障する活動を行うことはもちろんですが、「働くこと」を単に「お金を稼ぐ」という

ことだけに止めず「自分の値打ちを見出していく活動として」大切にしてきたこと、暮らしを支えるのは「余暇、医療、後見、地域での活動、公的機関のやりとり、将来設計など必要な支援は多岐にわたり」それを総合的に保障していくこと、自分たちのことは自分たちで考え合う「仲間自治会」の取組みなどの実践にあらわれています。法人運営そのものの中に、障害がある仲間たちの人間としての権利を守るという視点が貫かれてきたといえます。

・法人の運営を多くの人たちの共同事業として行う

法人の運営は、周りと関係なく独自にあるのではなく、仲間、家族、職員、地域、後援会などと相互に関係し、依存しあいながら成り立っています。地域との関係でいえば、「近隣地域の企業の理解に支えられて、実習や就労の機会に恵まれた」「地域の子供たちと一緒に遊ぶ、地域の店の買い物で声をかけられた」と日常的に交流が行われてきています。法人側としても「地域の清掃活動、クリコミの取組み」「地域に根ざす祭としてのこっから祭」等を行ってきています。「仲間自治会で、仲間の願いを要望にする」「献身的な家族会や後援会の取組み」等、法人運営に欠くことが出来なくなっています。また、全国・県・市の障害者団体との関係も法人運営の方向を見出す力となっています。「きょうされん」への職員派遣はもちろん、「障害者就業・生活支援センター」設立時に要請を受けて職員を一定期間派遣したりしてきました。官民を問わず障害者団体への役員派遣もおこなってきています。障害者福祉そのものが、本来「共同」ということを基礎にしており、こぶしの会は、そのことを重視してきたといえます。

このようにこぶしの会の歩みを考えると、一層理事長という職の重さを感じてしまっていますが、いつもの「何とかなる」で、仲間、家族、職員のみなさんと一緒に明るく・元気に取り組んでいこうと思います。

クライシスマネジメント ～災害対策をこぶしの会でも本気で～

9月、千葉の台風被害、大規模停電が生々しく報道されている。障害のある人たちはその只中で、どんな状態にあるのだろうか。去年も西日本を豪雨が襲った。南海トラフ巨大地震に限らず自然災害はいつどこで起こってもおかしくない。こぶしの会の利用者一人一人の姿に重ねて「その時」をイメージすると不安でたまらなくなる。

奈良県が7月9日、ようやく「奈良県災害福祉支援ネットワーク」を立ち上げた。構成団体は県内の障害者、児童、老人福祉施設関係者と、職能団体を中心。当事者団体として辛うじて障害者福祉連合（代表：藤井正紀氏）が名を連ねた。議事の内容は災害派遣の構築で、今秋から災害派遣チーム員の登録が始まる。この動きは去年5月に厚労省が「災害時の福祉支援体制の整備に向けたガイドライン」を策定し、奈良でも福祉専門職を被災地に派遣するチームやそのしくみが必要になったことが背景としてある。熊本地震の時、きょうされんを通じて何度か現地支援に入ったが、確かに避難所で一緒に活動したDPAT（注1）や保健師支援チームには随分助けられた。NSK（日本相談支援専門員協会）の関わりも東日本大震災の現地支援に行った時

にはなかったものだ。各自治体で災害時に要支援者への丁寧な支援が構築されていくのは心強い。しかし、肝は、当事者の視点がきちんと災害対策に活かされるかどうかではないか、と思う。視覚障害一つとっても視力の状態によって困難さは変わるし、聴覚障害者は情報が届かないだけでなく声を出して助けが呼べない。よく言う「日ごろから近所付き合いをして災害時に助けあう」ことが、精神障害を持つ人たちにはとても辛いことであつたりもするのだ。まさに、災害対策も「私たちのことを私たち抜きに決めないで・・・障害者権利条約」である。奈良市はこの4月から組織改正され「危機管理監」が独立した。先の千葉豪雨災害の教訓をどう生かすか。こぶしの会は福祉避難所にまだ手を挙げてはいない。年2回の避難訓練と備蓄食料の確保にとどまらない災害対策を本気ですすめていかねば。

注1) 精神病院医師・精神保健福祉士・看護師で精神保健医療について支援するチーム

注2) 奈良県障害者の生活と権利を守る連絡協議会、全国障害者問題研究会奈良支部、奈良県障害児学校教職員組合、きょうされん奈良支部の4者で構成

（文責 小針康子）



誕生日パーティーをして感じたこと

5月にひまわりとぐうぐう合同で誕生日パーティーを兼ねて外出に行ってきました。5月の誕生日は2名いて、うち1名がグループホームで初めて迎える誕生日だったので、本人さんは気分十分で王将で大好きなメニューを頼み、店員さんもデザートサービスをしてくれてあっという間に終わりました。調理のスタッフや学生さんも祝福ムードでそこには沢山の笑顔がありました。いつも沢山のスタッフやパートさんや学生さんの力でひまわり、ぐうぐう合わせて10名を支えてるんだという喜びがありました。

楽しい時間と共に「日々の暮らしを当たり前を支えていけること」。ふゆーちゃーに居てその素晴らしさを感じます。手前味噌ではありますが、宿直スタッフ以外に学生さんも朝、夕方と変則的な時間にホームに入ってくれて仲間の食事や入浴のフォローをしてくれたり、調理スタッフは美味しく栄養やカロリーにも配慮した夕食を毎日変わらず提供してくれています。そして宿直スタッフは身の回りの細々したことにとっても注意深くアンテナを張り、声掛けや相談しながら仲間の生活がより良くなるようにと考えてくれています。そうしたバックアップの積み重ねがイベントの際にとっても楽しく良いものになるのだと改めて思わせる1日でした。こうした思い出を沢山作っていったらそれは仲間にもスタッフにもとても豊かなことになると思います。スタッフ総出でこれからも仲間の笑顔や想いに近づけるようにと思います。

もう来年度になれば、新しいグループホームが立ち上がります。新たに入られる仲間とも当たり前で楽しい毎日と一緒に創っていったらなと思います。そして一緒に創っていけるパートスタッフさん大々大募集中です。（文責 赤尾信也）



創作活動の時間

活動班では、週に一回創作活動をしています。その時間は創作なので、仕事とはまた違い、少しリラックスして過ごせる憩いの時間です。春に、この一年どのような創作をしようかなかまと本を見ながら話し合いをしました。四季の鮮やかな風景や作品集に、「こんなしてみたいな。」「これ可愛いな。」「楽しそうやな。」との声。じーっと本を見ているなかまも。そして、決まったのがアジサイ・アサガオ・花火……など季節に合わせた壁面アートです。没頭して真剣な表情。思い思いにぐるぐる描いたり、紙をちぎったり、指先でトントントンと糊付けをしたり、やさしい力や思い切りの力、大きなタワシを使って一面に色を塗ったり、障子紙に色水を染み込ませてうちわ作りをしたりもしました。ちょっとやってみようかな。この感触好きやな。職員の手を持ってなら参加出来るー。という様子で、各々がやりやすい形で参加されています。

今は、秋の壁面アートで、牛乳パックで作った竹トンボが、模造紙いっぱいに描いた夕日の空を飛んでいます。9月～10月はこっから祭りに向けて準備の為、創作活動は一旦休止です。

さて、11月からは何を作るのか思案中。なかまの部屋の壁面には、その季節に合った作品を飾っているの、是非気軽に見に来て下さい。
(文責 寺嶋真理子)



ここすた活動報告

奈良佐保短期大学の地域防災避難訓練に参加しました。

自衛隊の防災グッズ(災害救援バッグ、救助グッズ)の展示や、移動キッチンカー(日本栄養士会災害支援チーム)、消防団などが来られていました。

体育館では、大学生が、近隣の危険マップを作製したり、段ボールトイレの設置、避難食の簡単調理などさまざまな状況を想定した体験型の避難訓練でした。

昼食は、栄養科のみなさんが作ってくださったカレーライス。食べ終わったところに、ドクターヘリが飛んできて砂埃とプロペラの音の臨場感に圧倒されました。初めて近くで見るヘリは、医療機器が小さなスペースにコンパクトにまとめられていて興味深々に写真を撮っていました。

さて、感想を問われた仲間は…。「カレーがおいしかったです。」「ヘリに乗っていたお兄さんがかっこよかったです」でした。

「防災」を具体的に身近に感じられる良い機会となりました。
(文責 島耕治)



こぶしの会法人全体研修を行いました。

こぶしの会では、毎年2回、全職員対象の研修を行い資質向上・共通理解の促進を図っています。今回の研修では、思い切って「他法人の実践から学び、今後の活動のヒントを得る」ことにし、大阪にある「さつき福祉会」へ研修に出かけました。こっからバスを利用して、総勢30人の大移動です。

まずは、重度重複障害がある利用者がはたらく「あいほーぷ吹田」の見学。

プールもあり、地域にも開放された施設で、どんなに障害が重くても働く権利を保障する実践を学びました。さまざまな工夫で仕事を保障し、リラックスできる場を設け、たのしい活動を作っていました。医療的ケアが必要な利用者も、安心して過ごせるよう設備が整備されていました。

次に、「みんなのき」という強度行動障害のある人のグループホームへの見学。

家族から切望されて地域の中にできた生活の場です。地域運動や仲間・家族の願いから事業を作り出す挑戦、「できない」ではなく「どうすればできるか」を考え続けて協働により実現させた努力が参加職員の胸に刻まれました。

「一番困っている人を支えることを大切にしている」「私たちはクリエイティブな仕事をしている」という仲間に向かう真摯な姿勢に、私たちの取り組むべき考えを得たり、自分たちの仕事の尊さを再確認する機会となりました。



〈研修を受けた職員の感想を一部紹介〉

- 平和が前提ということを言及されていたのはすごい。
- 運動によってつくられてきた、ということが語られたことで、私たちの進む道がより明確な拠り所を見つけられた。
- こっから(こぶしの会)も良い施設!職員集団!それを信じ、感じながら、共に支え合いながら仲間について支援していきたい。
- 何のために仕事をするのか、誰のために仕事をするのかを考えていきたい。
- 仲間と、その家族の幸せのあり方を考えていきたい。
- 反対意見こそ大事にしたい。

2018年度 決算公告

社会福祉法人こぶしの会

資金収支計算書

自:2018年4月1日 至:2019年3月31日 単位:千円

貸借対照表 2019年3月31日現在		単位:千円	
【資産の部】		【負債の部】	
流動資産	147,675	流動負債	8,882
現金預金	113,473	その他の未払金	477
未収金	31,609	未払費用	3,471
貯蔵品・原材料	1,753	他流動負債	675
他流動資産	841	賞与引当金	4,260
固定資産	257,801	固定負債	71,669
基本財産	227,982	設備資金借入金	68,500
その他固定資産	29,818	入所者借入金	700
建物	2,031	返戻引当金	2,469
構築物	10,295	負債の部合計	80,551
建物附属設備	5,123	【純資産の部】	
機械及び装置	756	基本金	50,840
車輛運搬具	907	第1号基本金	50,840
器具及び備品	1,610	国補等特別積立金	79,152
建設仮勘定	1,637	その他の積立金	8,969
無形固定資産	1,091	次期繰越活動収支差額	185,964
工賃変動積立預金	500	次期繰越活動収支差額	185,964
設備等整備積立預金	1,000	(うち当期活動収支差額)	14,769
返戻引当資産	2,469	純資産の部合計	324,925
その他積立預金	2,000	負債及び純資産の部合計	405,476
差入保証金	400		
資産の部合計	405,476		

資金収支計算書			
自:2018年4月1日 至:2019年3月31日 単位:千円			
	予 算	決 算	差 異
【事業活動による収支】			
就労支援事業収入	23,760	23,323	437
自立支援給付費収入	170,755	174,622	-3,867
利用者負担金収入	10,460	10,392	68
補足給付費収入	1,280	1,210	70
その他の事業収入	300	318	-18
借入金利息補助金収入	120	116	4
経常経費寄附金収入	11,010	150	10,860
受取利息配当金収入	1	1	-1
その他の収入	3,260	2,767	493
事業活動収入計	220,946	212,899	8,047
人件費支出	145,053	132,001	13,052
事業費支出	18,988	18,886	101
事務費支出	17,821	16,175	1,646
就労支援事業支出	25,124	24,546	579
支払利息支出	250	187	63
その他の支出	2,000	2,000	0
事業活動支出計	209,236	193,794	15,442
事業活動資金収支差額	11,710	19,105	-7,395
【施設整備等による収支】			
施設設備等補助金収入	0	0	0
設備資金借入金収入	20,000	20,000	0
固定資産売却収入	0	10	-10
施設整備等収入計	20,000	20,010	0
設備資金借入金元金償還支出	2,250	2,250	0
固定資産取得支出	42,550	31,461	11,089
施設整備等支出計	44,800	33,711	11,089
施設整備等資金収支差額	-24,800	-13,701	-11,099
【その他の活動による収支】			
その他の活動収入計(7)	32,335	17,399	14,936
その他の活動支出計(8)	31,335	16,399	14,936
その他の活動資金収支差額	1,000	1,000	0
当期資金収支差額合計	-12,090	6,404	-18,494
前期末支払資金残高	134,975	134,975	0
当期末支払資金残高	122,885	141,379	-18,494

藤井先生 ありがとう会

御 礼

先日(7月28日)は、休日で、しかも梅雨明けの暑い日にも関わらず 私の「ありがとうの会」に多数の皆様のご参加を頂きありがとうございました。

その上に、身にあまるお礼や労い、励まし、今後の生き方への叱咤激励のお言葉を頂き、心より感謝いたしております。

思い出せば、こぶしの会を法人化したのが、2001年9月、こっからの創立が2002年4月、その後、グループホームひまわりの開設、ぐうぐうハウスの開設、ここに、すたあと、ふゅーちゃー等の開設や運営等々、本当に忙しい時期でした。しかもこれらの事業等に対して、職員・仲間・ご家族の皆様が本当にご協力、ご支援を頂いたから出来た事業でありました。またその源は、障害者施策を“自分たちで切り開こうとする力”で、これはこぶしの会の誇るべき力だと思っています。またその力はこぶしの会が今後とも引き継いでいかなければならない大きな財産ではないかとも思っております。

社会福祉制度に対する、今後の社会や政治の動向を見ますと、手厚い保護や支援はだんだん薄くなり、障害者の自己責任論が強まる方向が見えています。私たちもこれらに対応するために更なる知恵や工夫が必要になるでしょう。特に親亡き後の彼らや彼女らの生活の支援には、まず自分たちの生活の基盤、「個人生活や施設運営の双方面の財政的な力」を、しっかり固めその上に、先に述べた施設・事業所・親や家族・後援会・その他の組織らの協力や努力による、地域や社会への働きかけが一番大事だと思います。

障害者施策、特に施設運営は、学校や会社と違い卒業や定年という区切りがなく、障害者の毎年毎年の生活の安定や進化、時には病気等の対応も含み、休みが無いのです。今後こぶしの会もこれらの大事業に取り組み成功を収められるよう期待しています。また皆様方のご健康とご多幸をお祈りしお礼の言葉にいたします。

ありがとうございました。

藤 井 正 紀



Topix

5月



つながり祭

今年も県営福祉パークでつながり祭が開催されました。ステージを見たり、お店を楽しんだり、懐かしい出会いもあり、楽しい時間を過ごしました。

歯科検診

2年ぶりにミッからで歯科検診がありました。みんな自分の番まで横の待機席で緊張+ドキドキで待っています。



紙すき班とりくみ

車に乗って生駒山麓公園に行きました。アスレチックで腹ごしらえをしてから、公園内のレストランでランチをしました。おいしかった!



玉ねぎ収穫

ミッからの畑で玉ねぎの収穫をしました。今年はとうふ工房を中心にパン工房と活動班からも助っ人が参加。立派な玉ねぎが沢山とれました。

7月

避難訓練

今回の避難訓練は何分まで全員が外に脱出できたのでしょうか?その後、消火の訓練も行いました。



パン工房 とりくみ

たまご焼き、目玉焼き、ウインナー、お味噌汁、おにぎり...オーソドックスなおかず達ですが、"自分たちで作る"ことをめざして調理活動しています。



クリーンコミュニティ

地域の方と一緒に月に1回の古市公園の清掃活動。そうじの後のお茶タイムを楽しみに参加しています。

6月

開所日 ふおとんへ

ミッからバスに乗って木津にある「ぎづ光科学館ふおとん」へ行きました。光に関する展示やミニ工作などの体験を楽しみました。



活動班 とりくみ

カフェ&ベーカリークラブボンにランチに。それぞれ好きなメニューを選びました。ランチの後は九条公園に行きました。



紙すき・活動班 絵画展見学

アートスペース上三条さんで開催されていた「きりんきりん」の絵本原画展を見学しました。カラフルな絵本の原画を見ることができました。



紙すき班 とりくみ

みんなでパフェ作りをしました。コーンフレーク・アイスクリームでおいしいオリジナルのパフェができました。

8月

とうふ工房 とりくみ

路線バスに乗って奈良公園周辺を散策しました。新しくできたバスターミナルのスターバックスでおしゃれなコーヒータイムを過ごしました。



開所日 水遊び

夏、真っ盛りの開所日はきれいになったテラスを活用し水遊びをしました。水鉄砲や水風船を使って全身ビシャビシャで暑さを楽しみました。



東市まるごと探求合宿



8月の21、22日と地域貢献の一環として、東市まるごと探求合宿の東市小学校の生徒さんにこっからの食堂、仲間の部屋、お風呂を開放し利用していただきました。

地域の方々に、こっからのことをより身近に感じていただけるような活動を、今後も取り組んで行きたいと思っています。合宿での詳細や当日の様子を担当された奈良教育大の学生さんに書いていただきました。

合宿の名前は、子どもたちに「なぜ？」という気持ちをもって、調べる楽しさを味わってい欲しいと思い、探求合宿にしました。

初の試みとなった2泊3日の東市まるごと探求合宿ですが、地域の方々、保護者の皆さん、そして子どもたちの協力があって、無事成功することが出来ました。

【探求活動】

何度も何度も試行錯誤をする楽しさを知って欲しいという気持ちと、毎週水曜日の「まなびーや」の時間ではなかなかできないような体験を子どもたちにして欲しいという気持ちを込めて、学生から子どもたちに提案する探究活動の時間です。今年は水風船ドロップに挑戦しました。水風船ドロップというのは、高いところから水風船を落としたときに、どんなサポーターを作れば割れずに落とせるかということを工夫するものです。新聞紙や厚紙、セロハンテープ等を用いて、いかに軽く、安定した装備を作れるかが焦点でした。子どもたちが無我夢中で取り組む姿に学生は本

当に嬉しくて感動しました。

【学習集中タイム】

この時間は、子どもたちが自発的に「なぜ？」と思ったこととことん向き合う時間です。自分が今まで疑問に思っていたことや自分が興味のある分野を、図鑑や本、学校で借りたiPadを使って、一所懸命に調べていました。

【こっからさんでは…】

2日間、大変お世話になりました。こっからさんのご協力がなければ達成できなかった合宿だったと、改めて感じています。子どもたちにとっても、こっからさんでお風呂に入ったことや、大広間で仲間と共に学び笑いあったことがとても素敵な思い出になりました。

ご協力くださり本当にありがとうございました。これからも東市小学校の子どもたちを、共に見守っていただけるようお願いをして、活動紹介の結びにいたします。

(文責 奈良教育大学教育学専修 三回生 前田早希)



今年はアライグマにやられちゃいました

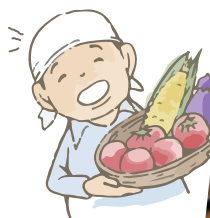
こっからの隣の畑をお借りして、畑作業に取り組んで今年で3年目となります。

昨年、一昨年とイノシシにさつまいもとスイカを食べられてしまい、今年は早い時期から作物の周りに電柵をして対策をしていました。さつまいもの葉が少しずつ大きくなってきたある日、さつまいもの畝が掘り返されている!! 最初は今年もイノシシかと思っていましたが、こっからのご近所にお住いの食堂のかたに聞いてみるとなんとアライグマではないかということでした。電柵と地面との間(少し感覚が広がったみたいですが)を潜り向けて畑に侵入。100株ほど植えていたさつまいもはほぼ根元を掘り返され、とても残念な光景でした。

そんな中でも、玉ねぎ、ジャガイモ、ナス、ピーマン、キュウリ、ミニトマト、ズッキーニと夏野菜は大量に収穫出来ました。収穫した野菜で毎週野菜炒めやカレー、いももちを作り給食の時に美味しくいただきました。

来年はみんなでさつま芋堀をした〜い。

(文責 田村智章)



生活支援のための施設建設を、みんなの力で！

～9月17日、いよいよ造成工事スタート～

理事長 坂 下 伸 一

■造成工事始まる

開発工事、農地転用等の許可があり、9月17日から建設地の造成工事が始まりました。

建設地が市街化調整区域、農地ということで、その申請に多くの時間がかかりましたが、許可があり、工事が開始されることになったものです。なお、工事開始前には、3社から造成工事の見積もりをしてもらい、大倭殖産（奈良市）に依頼することになりました。

造成工事開始にあたっては、建設地に隣接する地権者や藤原台住民自治会のみなさんに工事開始の説明も行いました。みなさん、今回の建設に対して、おおむね好意的に受け止めてくださっていて、トラブルなく進んでいます。日ごろからの地域と法人との関係のよさが表われているのだと思います。今後、

造成工事に約2ヶ月、造成工事中に建設業者の入札と決定を行い、造成工事後、すぐに建設工事に入り、来年（2020年度）の5月ごろには完成予定です。（予定については現時点での見通しであり、変更もあります。）

■引き続き支援を

「こぶし通信48号」でお知らせしたように、工事費の高騰が続いています。これまで法人として考えてきた新規事業の予算が膨らんでいく可能性があります。また、グループホームは今回の1棟だけでなく、同じ敷地内に2棟目の建設を予定しています。また、現在あるグループホームの改修、移転等も控えています。引き続き、借入金・募金などの資金面を含め、ご支援をお願いします。



社会福祉法人こぶしの会では、グループホームの建設、開始に向けて、障害のある方の暮らしをささえるスタッフを募集しています。

募 集 内 容	グループホームでの生活支援。食事、入浴、整容などの介助や、生活全般のサポート。
勤 務 時 間	夕方 16:00～翌 10:00までの宿泊をとまなう勤務。 またはこの時間内3～5時間の範囲での宿泊を伴わない勤務。（時間帯は相談に応じます）
雇 用 形 態	非常勤
給 与	時給 920円（16:00～翌10:00の場合 17,940円）
資 格	不 問
経 歴	不 問
お問い合わせ	担当（藤井まで） TEL／0742 - 63 - 6504 E - MAIL／ma37ur55ml@kcn.jp

※新規に建設予定のグループホームの他に、現在稼働しているしているぐうぐうハウス、ひまわりの2ホームでもスタッフを募集しております。

グッズデザインコンクールの絵が ハンカチになりました。

きょうされんのグッズデザインコンクールに出展され、Vol.46号でスマホケースになったとお伝えしました菅原啓さんの「フラワー」の絵。

「TOMORROWLAND×MUKU」のコラボレーションとして今回ハンカチになりました！近畿圏ではルクア大阪店、梅田阪急店、京都店、神戸店、京都BAL店にあるTOMORROWLAND各店で販売されるそうです。自分が描いた絵がグッズとなって生まれ変わると創作意欲がメラメラと沸き起こってきます。また次のコンクールに向けてこっからの画伯たちは作品を生み出していきますので皆さまご期待下さい！



ありがとう ございました！
寄 贈

♥株式会社オーグス総研様より

株式会社オーグス総研様が募集されていた、第10回Daigasグループ「はじまるくんパソコン寄贈プログラム」に申し込みをしましたところ、見事こっからも選ばれ、パソコンをご寄贈いただきました。

ちょうど新しいパソコンが欲しいと思っていたところに選んでいただき大変感謝しております。今後、紙すき班での印刷作業の要のパソコンとして有効に活用させていただきます。ありがとうございました。



編集後記

「働き方改革」なんですよ、世の中は今。それは、福祉の分野だって同様です。かつて障害福祉の業界は作業所の数も少なく、3Kと言われ、土日も含めた長時間労働が当たり前、半分ボランティアの精神で、低賃金でもやり甲斐があるから頑張れるというか、それでもいいからこの仕事かしたいという人が集まる意味で特殊な分野でした。それが時代が移り、多くの関係者の努力や人権意識の高まりによって、法律や制度が変わり、社会の理解も少しずつ広がり、障害のある人たちを支援する事業所が爆発的に増えました。当然その増えた分の働く人が必要になるわけで、福祉労働人口も急激に増加し、福祉職はそれまでの特殊分野から誰もが選べる職業選択のひとつとなりました。そしてそのことは私たちが望んできたことでもあります。しかし一方で働く条件は相変わらず厳しく、福祉だから仕方がないという経営側と、職業の一つとしての労働者側との意識のズレは拡がっていき、結果として新卒採用及び定着率の低さや、残念なことここ数年は労使間でのトラブルとなるケースが各地で起こったりしています。もちろん事業所の大半は何とか改善しようと必死で努力しているし、職員さんも厳しい条件の中で仲間のために一生懸命頑張っています。大事なことは、これから益々必要となってくるこの仕事が必要改善していかないのかという矛盾の背景をお互いが共有し、一緒に声をあげ、力を合わせていくこと。経営の立場では、これまでの常識や仕方がないという諦めを改めて疑ってみる。そしてこの状況の中でも創意と工夫によって、思いのある人たちが安心して働き続けられる環境を創造していくこと。労働者人口自体がこれから減少していく中で、これまでこぶしの会が大切にしてきた仲間、家族、法人、職員、地域の願いを寄せ合い、手をつなぎ合う「きょうどう」の真価が試される。仲間を真ん中に、私たちの、私たちのための改革を実現していきたいと思っています。

(古木一夫)

藤井先生
ありがとう会の
記念品として
仲間自治会でバックを
作りました！



こちらも
ご覧下さい

<http://kokkara.jp/>

・ネットショップ ・活動ブログ
・ニュースブログもお楽しみ下さい。



こっから facebook